

航空機内における障害者等への 「優先エリア（配慮席）」の必要性について

沖縄総合事務局「移動等円滑化評価会議 沖縄分科会」委員の皆様への説明資料

沖縄県手をつなぐ育成会 会員 玉那覇 仰

1 はじめに — 沖縄における航空移動の重要性

沖縄県は、多くの離島を抱え、県民の生活、通院、通学、就労、家族との交流、観光などにおいて航空交通が極めて重要な役割を担っています。特に、障害者や高齢者、発達障害・知的障害のある方、意思疎通や環境への適応に困難を抱える方にとって、航空機を安心して利用できる環境を整えることは、移動の自由と社会参加を保障する上で重要な課題です。

そこで、航空機内の一部座席を、特別な配慮を必要とする旅客が利用しやすい「優先エリア（配慮席）」として位置付けることを提案します。本提案は、障害者だけを特別扱いすることを目的とするものではありません。誰もが安心して航空機を利用できる環境を、社会全体で支える仕組みをつくることを目的としています。

2 なぜ「優先席」ではなく「優先エリア（配慮席）」なのか

航空機内では、鉄道やバスのように自由に立ち上がったたり、座席を移動したりすることが難しく、搭乗から降機まで一定の時間、限られた空間で過ごすことになります。そのため、障害者等の中には、座席そのものだけでなく、周囲の乗客や乗務員から理解・見守りを得やすい環境を必要とする方がいます。

そこで、「障害者専用席」とするのではなく、機内の一部を「優先エリア（配慮席）」として設定し、障害者、高齢者、妊産婦、けがをしている方、その他安全上・移動上の配慮を必要とする方が利用しやすい仕組みとすることが考えられます。これにより、利用者の尊厳を守りながら、状況に応じた柔軟な運用が可能になります。

3 最も重要なのは「心のバリアフリー」

この提案で特に重視したいのは、座席を設置すること自体ではなく、その座席をきっかけとして「心のバリアフリー」を機内に広げることです。

障害のある方の中には、外見からは障害や困難が分かりにくい方もいます。また、知的障害や発達障害のある方の場合、長時間の待機、機内の音や環境の変化、予定変更などによって不安が強くなることがあります。その際に、周囲から「なぜ落ち着かないのか」「なぜ特別扱いされるのか」と受け止められるのではなく、「困っていることがあるのかもしれない」「少し配慮すれば安心して利用できる」と理解してもらえることが大切です。

「優先エリア（配慮席）」は、単なる座席の指定ではなく、乗客同士が互いの事情を理解し、必要な場合には温かく見守るという社会的メッセージにもなります。航空会社、行政、利用者が一緒になって心のバリアフリーを実践する場として、大きな意義があると考えます。

4 想定される具体的な仕組み

- ・ 機体後方など、航空会社が安全面・運航面を考慮して適切と判断した座席の一部を「優先エリア（配慮席）」として設定する。
- ・ 障害者、高齢者、妊産婦、けがをしている方など、特別な配慮を必要とする旅客が優先的に利用できるようにする。
- ・ 予約時や搭乗手続きの際に、利用者が希望を伝えやすい仕組みを整える。
- ・ 周辺座席の旅客に対して、「配慮を必要とする方が利用する場合があります。ご理解とご協力をお願いします」と分かりやすく案内する。
- ・ 障害の特性や必要な配慮について、客室乗務員等への研修を充実させ、合理的配慮と心のバリアフリーを組み合わせる。

5 「特別扱い」ではなく「参加しやすい環境づくり」

優先エリアの設置に対して、「特定の人だけを優先するのは公平ではない」という意見が想定されます。しかし、重要なのは全員を同じように扱うことだけが公平なのではなく、個々の事情によって生じる障壁を取り除き、実質的に誰もが社会参加できる環境を整えることです。

例えば、車いす使用者にスロープを用意することを「特別扱い」と考えないのと同じように、航空機内で特別な配慮を必要とする方が安心して過ごせる環境を用意することも、移動のバリアを取り除くための合理的な取り組みと考えることができます。

6 沖縄から「心のバリアフリー」を発信する意義

沖縄では、離島を含め航空機が日常生活を支える重要な公共交通機関です。だからこそ、航空機を利用する際に障害の有無にかかわらず互いに支え合う文化を育てることは、沖縄県全体の共生社会づくりにもつながります。

優先エリア（配慮席）は、大規模な設備改修を必ずしも伴わず、既存の座席配置や予約・案内方法を工夫することから検討できます。まずはモデル的な運用を行い、利用実績や安全面、利用者の意見を検証しながら改善していく方法も考えられます。

7 沖縄分科会の委員の皆様をお願いしたいこと

航空機内における障害者等への配慮について、航空会社だけの問題として捉えるのではなく、公共交通のバリアフリー、合理的配慮、そして「心のバリアフリー」を実現するための社会的課題として検討していただきたいと考えています。

特に、①航空機内の一部座席を「優先エリア（配慮席）」として設ける可能性、②障害者等が安心して利用できる予約・搭乗・降機の仕組み、③周囲の乗客の理解を促す案内、④乗務員等への心のバリアフリー研修、⑤沖縄におけるモデル的な取り組みの可能性について、評価会議の場で議論・検討していただくことをお願いします。

8 おわりに

「困っている人がいたら助ける」という個人の善意だけに頼るのではなく、「困っている人がいても安心して利用できる仕組み」を社会として整えることが、これからのバリアフリーには必要です。

航空機内の優先エリア（配慮席）は、そのための一つの具体的な方法です。座席という「ハード」の整備に加えて、周囲の理解という「心のバリアフリー」を組み合わせることで、障害のある方もない方も安心して航空機を利用できる社会につながります。

沖縄という、航空交通が県民生活に不可欠な地域から、航空機内における「心のバリアフリー」の新しいモデルを発信することには、大きな意義があると考えます。

航空機内に優先エリア(配慮席)が必要です

～すべての人が安心して空の旅を～

心の
バリアフリー
を広げよう

沖縄・離島にとって航空機は、欠かせない大切な公共交通機関です。

多くの方が快適に移動できるよう、障害のある方やお子様連れの方、高齢の方、体調に不安のある方など、特に配慮が必要な方が安心して利用できる「優先エリア(配慮席)」の設置が必要です。

機体後方の一部を「優先エリア(配慮席)」として設定(例)

こんな方々にとって、安心につながります



車いすをご利用の方

移動やトイレ介助など、配慮が必要な場面があります。



補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)をご利用の方

補助犬を同伴しやすく、周囲のご理解が安心につながります。



お子様連れの方

ぐずりや授乳、オムツ替えなど、周囲への配慮が必要になります。



高齢の方・体調に不安のある方

急な体調変化への不安があり、乗務員のサポートが受けやすくなります。



内部障害や難病のある方など 外見からは分かりにくい方

疲れやすさや通院などの理由で、配慮が必要な場面があります。



- 移動に時間がかかる方が搭乗・降機しやすいエリア
- トイレに近く、緊急時にも乗務員が対応しやすいエリア
- 周囲のご理解と見守りに支えられる、安心できるエリア

「障害者専用席」ではなく「優先エリア(配慮席)」として

特定の方だけの席ではなく、配慮が必要なすべての方が、必要なときに利用できるエリアです。利用する方も、周りの方も、お互いに思いやりの心を持つことが大切です。



心の
バリアフリー
って?

座席の配慮だけでなく、心のバリアフリーが何より大切です

困っている方にそっと見守る、必要に応じて声をかける、温かく支え合う心が、誰もが安心して利用できる空の旅につながります。

～「やさしさ」を「当たり前」に。みんなで広げよう、心のバリアフリー～



搭乗口での他の乗客へのアナウンス(例)

搭乗前に、配慮のお願いをアナウンスします。

本日は、配慮が必要なお客様のために、機内後方の一部を「優先エリア(配慮席)」として設定しております。
車いすをご利用の方、補助犬をお連れの方、小さなお子様連れの方、体調に不安のある方などが安心してご利用いただけるよう、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



ネットでチケット予約する際のお願い

配慮席の周辺を予約される方へのご協力と配慮のお願いです。

機内後方の「優先エリア(配慮席)」周辺の座席をご予約の際は、配慮が必要なお客様が安心してご利用いただけるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。
大きな音を立てない、必要に応じて席を譲るなど、温かいご配慮をお願いいたします。



配慮席への予約がない場合は、一般のお客様でもご予約・ご利用いただけます

配慮が必要なお客様のご予約がない場合は、一般のお客様もご予約・ご利用いただけます。
必要な方が安心して利用できることを優先するため、空席状況に応じて柔軟に運用します。



優先エリア(配慮席)の設置による効果

誰もが安心して利用できる



すべての人にとって、安全で快適な空の旅につながります。

周囲の理解が広がる



配慮の存在が、自然と思いやりや見守りにつながります。

沖縄らしいおもてなしの実現



沖縄から「心のバリアフリー」の輪を広げ、地域の魅力向上と信頼につながります。

持続可能な共生社会へ



すべての人が互いを尊重し、支え合う社会の実現に貢献します。

優先エリア(配慮席)の設置とともに、周囲のご理解・ご協力をお願いします。

誰もが安心して、笑顔で空の旅を楽しめる沖縄をめざして。

沖縄から、心のバリアフリーを未来へ。♡ ～思いやりの翼を、みんなで広げよう～



論壇

旅行時の安心確保を望む

先日、親族の法事があり、家族で飛行機に乗って離島に行った時のことである。息子は重度の知的障がいがあり、飛行機に乗ることに慣れておらず、機内において興奮し、声が出てしまうことがある。事情を知らない他の乗客は驚くかもしれないが、前の座席に座っていた男性が終始私たちの方をにらみ付け「静かにさせろ」と言わんばかりの表情を見せ、席を立つ際も捨てぜりふを言いつて飛行機を降りていった。

私たちも覚悟はしていたが、



玉那覇仰

障がい者の飛行機利用

声を出して周りを驚かせてしまったという申し訳なさと、そこまで迷惑そうな態度を見せなくてもよいではないかといった悔しい気持ちと同時に悲しい気持ちにさせられた。

確かに、障がいや特性を知らない人からは、子どものしつけができていない家族に見えたかもしれない。個人的には「しっかりとしていない親」と見られることは構わないと思っているが、子どもが「わがままな子」として迷惑な存在と見られていると思うと本当につらい。知的障がいや自閉スペクトラム症がある方の家族は皆同じような経験があり、共通の悩みではないだろうか。

ある方や家族の悩みとして現状について記し、改善策について要望したことがある。航空会社も、この問題について認識し、優先搭乗や職員の配慮・声かけに力を入れていることは実感感謝するところであるが、現実として解決には至っていない。

難しい問題であることは承知しており、過剰な要望かなとも思うが、声を上げなければ現状を伝えることはできない。多くの人に「障がいがある方」の感じている問題として知るきっかけになり、社会全体の問題として共に考えてもらえれば幸いである。

にしていることが当たり前であり、迷惑と思われることなく、お互いさまの寛容な気持ちで過こせる工夫である。当然私たち当事者も権利だけを要求するのではなく、できるだけの努力が必要であることは言うまでもない。しかし努力やお願いだけではかなわない現実に対し、仕組みを検討し制度化することも視野に航空会社や関係する立場の方々と協力してさまざまな問題について知ってもらい、お互いに意見を交わし、問題解決に向けて歩み寄ってゆけることを願っている。

私たちにとって今は「夢のまた夢」であるが、誰もが安心して飛行機に乗り、旅行ができる世の中になることを希望したい。

（豊見城市、おきなわ重度障がいを持つ方と家族の生活を考える会代表、50歳）